

1 本計画の目的

本市では、「若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針（平成 30(2018)年 10 月策定）」（以下、「基本方針」という。）において、川崎らしい地域資源である若者文化の発信により、本市の魅力を高めて「若い世代が集い賑わうまち」をめざすことを掲げ、東京 2020 オリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）を契機に、大きな可能性を秘めた若者による文化を活用し、本市の「若い人が多い」、「若者による文化が盛んである」という特徴を活かした持続可能なまちづくりに向けた取組を進めています。

基本方針では、本市の特徴や地域資源を活かしたまちづくりを進めていく観点から、若者文化を「本市で盛んであるストリートカルチャーやエクストリームスポーツ」と定義したうえで、①現に「オリンピック（ユースを含む。）種目」であるか採用をめざしている種目であること、②市民の間で環境整備に関する一定のニーズがあること等を基本として対象コンテンツを検討することとしています。

そのうえで、「若者文化に携わる市民一人ひとりが主役となって本市の若者文化を盛り上げていくこと」という基本的な考え方のもと、「若者文化に携わる市民が協働・連携して地域を盛り上げていける環境と安全・安心に活動できる環境」の整備に向け、ハード、ソフト両面で支援を行っていくことが位置付けられています。

本計画は、基本方針に基づき、ハード面における具体的なコンテンツや、ニーズ調査等を踏まえた環境整備やソフト面における取組の方向性、今後概ね 10 年間のスケジュール等について定めるものです。

2 本計画における若者文化を構成するコンテンツ等

基本方針に基づき、「本市で盛んであるストリートカルチャーやエクストリームスポーツ（＝若者文化）」であることを前提に、「①現に「オリンピック（ユースを含む）種目」であるか採用をめざしている種目であること、②市民の間で環境整備に関する一定のニーズがあること等」を基本として、本計画における若者文化を構成するコンテンツを下記のとおりとします。

なお、ハード面での支援においては、コンテンツごとに必要な機能や規模等が異なることや、施設が既に一定程度存在するコンテンツもあることから、下記コンテンツの全てが、市が施設を整備する対象コンテンツになるとは限りません。

(1) コンテンツの種類

ア スケートボード

東京 2020 大会の新種目として採用されました。大会組織委員会の公式サイトでは、「スケートボードの起源は諸説あるが、1940 年代にアメリカ西海岸で木の板に鉄の車輪をつけて滑った遊びが始まりとされており、1950 年代に入って木製の板にゴム製の車輪がついた『ローラーサーフィン』という商品が販売され、これが現在のスケートボードの原型になったといわれる。とくに若者に人気の比較的新しいスポーツで、1980～1990 年代にかけて世界に広まった。1990 年代後半からは、グラフィックや音楽、ファッションをともなってストリートカルチャーの中心的な位置を占めるようになった。」と説明されています。

東京 2020 大会の種目には、街にあるような階段や手すり、縁石やベンチ、壁や坂道などを模した直線的なセクション（構造物）を配したコースで行われる「ストリート」と、大きな皿や深いお椀をいくつも組み合わせさせたような、複雑な形をした窪地状のコースで行われる「パーク」の 2 種類があり、それぞれトリックの難易度や高さ、スピード、オリジナリティ、完成度、そして全体の流れを見て審査員が総合的に判断し、採点されます。



WaiWai ドームしもつまスケートボードパーク（下妻市）の「ストリート」 戸吹スポーツ公園スケートパーク（八王子市）の「パーク」

イ BMX

BMX は Bicycle Motocross（バイシクルモトクロス）と呼ばれる自転車競技と、その競技に使用する自転車を指します。一般社団法人全日本 BMX 連盟公式サイトによれば、発祥は 1970 年代初頭、大人のもトクロスに憧れ少年が自転車でもねたことが始まりと説明されています。

BMX には、大きく分けて、レース、フリースタイル、フラットランドの 3 種類があり、レースについては北京 2008 オリンピック競技大会から採用され、フリースタイルについては東京 2020 大会から新種目として採用されました。

レースは、世界レベルの大会では高さ 8m のスタート台からスタートし、コース途中にある大小様々なジャンプやバームと呼ばれるカーブをこなしながら、300～400m の距離を走り抜きます。

フリースタイルは、様々なサイズのジャンプ台を使い、ジャンプ中の縦横の回転技や自転車だけを回転させる技、ハンドルを回す技などを組み合わせて、高難度の技を連続的にくり出していきます。施設的には、一定のルールのもとスケートボードの施設との共用は可能です。



サイクルピア岸和田(岸和田市)の BMX レースのコース

フラットランドは、平らな場所で自転車とともに回転したり、タイヤの上でバランスをとったりといった芸術性の高いトリックを競い合う競技です。施設的には、後述するダンスステージの使用が可能です。

ウ インラインスケート

ローラースケートの一種で、アイススケートのブレード(刃)のように、ウィール(車輪)を縦一列に配置したものです。その種類は、アグレッシブ、スローーム、ホッケー、スピードなど多岐にわたっています。

このうち、エクストリームスポーツとしてのインラインスケートが「アグレッシブ」であり、大型のハーフパイプを使い、与えられた時間内でトリックの難易度、高さなどを競う「バート」、一方通行のコースを滑りきり、その中でトリックの難易度、トリックのつなぎ方などを競う「スロープスタイル」のほか、スケートボードと同様に「ストリート」「パーク」といった種類があります。

施設的には、一定のルールのもとスケートボードとの共用は可能です。

なお、一般社団法人日本ローラースポーツ連盟(JRSF)が、スケートボードとともに、この「スロープスタイル」と長距離を滑る「マラソン」を東京 2020 大会で追加種目として申請しましたが、スケートボードのみが採用されたという経緯があります。

エ ブレイキン、ヒップホップダンス

ブレイキンは、ヒップホップの楽曲に合わせてアクロバティックに踊るダンス・スタイルです。バックスピンやヘッドスピンなど、ほかのダンスではあまり見ることのできない動きが特徴となっています。

ヒップホップダンスは定義するのが最も難しいジャンルで、時代によって様々なスタイルが存在し、広義ではヒップホップミュージックにあわせて踊るダンス全般と捉えられ、音楽の流れとともに多くのスタイルが生まれてきました。ブレイキンも 1970～1980 年代に誕生したダンスでオールドスクールに分類され、現在のヒップホップダンスは 1990 年代初頭以降に誕生したニュースクールに分類されるストリートダンスを指すと言われています。

特に本市では、本市出身・在住の石川勝之氏(日本ダンススポーツ連盟ブレイクダンス部部長)が、これまで数々の世界大会で優勝してきたことをはじめ、本市を拠点に活動する The Floorriorz が Battle of the year World Final で前人未達の 3 連覇を達成しています。(2015～2017 年史上初)。

また、平成 30（2018）年 5 月には、カルッツかわさきで開催されたブエノスアイレスユースオリンピックの予選を兼ねた世界ユースブレیکن選手権で、同年 10 月にはブエノスアイレスユースオリンピックで、The Floorriorz に所属する県立百合丘高校 2 年(当時)の河合来夢さんが優勝するなど本市在住の B-boy、B-girl が活躍しています。

こうした人材を輩出する背景には、1990 年代以降、例えば南部ではルフロン前の広場、北部では武蔵溝ノ口駅前や宮前区役所前の広場など、市内のいたるところで若者がダンスの練習に明け暮れてきたという歴史的な経緯があり、路上等でダンスをすることについての是非の議論はあるものの、本市のストリートカルチャーとしてしっかり根付いている事実があることから、国内外からもブレیکنの聖地として認知されているということがあります。

施設的には、練習するために、滑りにくい床と全身を映すことのできる鏡(の機能)が必要であり、またダンスは音楽と共にあるため、場の盛り上げには DJブースなどの音響設備も必要です。



小山公園ニュースポーツ広場(相模原市)のダンスステージ

オ ダブルダッチ

NPO 法人ダブルダッチ協会の公式サイトでは、「300 年以上前ハドソン川のほとりのニュー・アムステルダム（現在のニューヨーク）に入植したオランダ人によってアメリカに持ち込まれたなわとび」で、「2 本のロープを使って跳ぶなわとびです。3 人以上で行ないますが、向かい合った 2 人のターナー(回し手)が、右手のロープと左手のロープを半周ずらして内側に回す中を、ジャンパー(跳び手)が色々な技を交えて跳ぶというものです。手軽に誰にでもできて、集中力、持久力、リズム感、創造力、バランス、そしてチームワークが自然に身につく楽しいスポーツです。」と説明されています。

競技としてのダブルダッチには、2 分間でいかに速く跳ぶことができるかを競い合う「スピード」、決められた時間内に定められた演技を行う「規定」、1 分間でチーム独自の演技を行う「フリースタイル」、フリースタイルの演技に音楽を融合（フュージョン）させ制限時間内にチーム独自の演技を行う「フュージョン」の 4 種目があります。

施設的には、一定のルールのもとダンスステージとの共用が可能です。



ダブルダッチのフリースタイル

カ スポーツクライミング

スポーツクライミングは、岩などの自然を相手にするロッククライミング等の山岳競技から派生したもので、1990 年代から整備された岩場や人工的に作られた壁を使用するスポーツクライミングへと変化してきたという経緯があります。

スポーツクライミングには、高さ 15 メートル、95 度に前傾した 2 つの壁を 2 人の選手がタイムを競いながら登る「スピード」、高さ 4 メートル程度の壁に極限まで難しく設定されたコースを 4 分の制限時間内にいくつ登れるかを競う「ボルダリング」、6 分の制限時間内に高さ 15 メートル以上の壁のどの地点まで登れるかを競う「リード」の 3 種類あり、東京 2020 大会は、この 3 種類の複合で競い合います。

このうち、「ボルダリング」と「リード」は日本人選手が世界トップレベルにありますが、国内には「スピード」を練習できる施設が少なく、その強化が課題となっています。



© PUMP2 号店/川崎市山岳協会

キ バスケットボール 3by3

元々、公園等に設置されたゴールやコートを使用し、簡略化されたルールの下でプレイされるバスケットボール(ストリートボール)の一種であり、それが競技化されて 1 チーム 3 人で、正規のバスケットボールのコートのハーフコートを使用して行われるようになりました。5 分×2 ピリオドで行われ第 2 ピリオド終了時点で得点の多い方が、先に 21 点先取した方が 10 分を待たずに勝利します。



小山公園ニュースポーツ広場(相模原市)の
3by3 バスケットボールエリア

ク パルクール

パークールはフランス発祥の走る・跳ぶ・登るといった移動に重点を置く動作を通じて、フランス軍隊が発祥の心身を鍛えるスポーツです。主に「スポット」と呼ばれる周囲の環境を利用して練習を行います。フリーランニングは、これに宙返りなどのアクロバティック要素を加えたものと言われていますが、現在は両者を同一のものとして捉えるのが主流となっています。

施設的には、バランスよく配置された壁や手すり(ジャングルジムのような)などで、近年はレッスン付きの民間のスタジオの開設が続いています。



デンマークの公園に設置されているパークールパーク

(2) 各コンテンツに必要な施設

(1)に記したコンテンツに必要な施設をまとめると下記のとおりとなります。

コンテンツ	必要な施設	概要
スケートボード	スケートパーク	舗装面にジャンプ台や鉄棒などの構造物（セクション）が設置された「ストリート」と、大きな皿や深いお椀を組み合わせたような窪地状の「パーク」の2種類がある。
BMX フリースタイル	スケートパーク	上記「ストリート」で滑走可能であるが、最適なセクションの形状や配置は異なる。
インラインスケート	スケートパーク	上記「ストリート」で滑走可能であるが、最適なセクションの形状や配置は異なる。
	ローラースケート場 （平面コース）	特にセクションを配置しない舗装された平面。小さなパイロンなどを置いて練習することもある。
BMX レース	レースコース	土で作られたコースにスタート台や様々な大きさ形の起伏が設けられている。
BMX フラットランド ブレイキン ヒップホップダンス ダブルダッチ	ダンスステージ	一定程度の面積を有した平らな床面。練習用に鏡面が整備されている施設や、音響設備を備えた施設もある。
スポーツクライミング	クライミングウォール	人工的に作られた壁に手がかり足がかりとなる突起物が設置されており、安全確保用具として着地マットなどが用意されている。
3 by 3	バスケットボールのハーフコート	バスケットボールコートの一面の広さにバスケットゴールが一つ設置されている。
パルクール	パルクールパーク	壁やジャングルジムのような手すり、高台などの障害物が配置された施設。

3 環境整備に係るニーズ等の調査

本計画の策定にあたり、Web アンケートと市民車座集会により市民ニーズの把握を行いました。その結果概要は下記のとおりですが、理念的な意見については基本計画に反映するとともに、施設に関する個別具体的な意見は、今後具体的な施設整備を行う際の参考とするほか、ソフト面の意見については、基本方針に基づくソフト面における支援を行う際の参考とします。

(1) Web アンケート

市民の意向やニーズを把握するため、平成 31(2019)年 2 月 28 日から同年 3 月 15 日まで本市ホームページ上でアンケートを実施し、344 件の回答が得られました。主な結果としては、92%の方が「ストリートカルチャーやエクストリームスポーツに興味がある」と回答しており、そのうち 99%の方が、ストリートカルチャーやエクストリームスポーツを「すでに行っている」あるいは「これからしてみたい」と回答しています。そして、現在活動されている方の活動頻度としては、毎日が 29%、週に数回が 42%となっています。

また、施設が整備された場合の管理運営についても何らかの形で関わりたいという意向を示す方が 81%、まちの賑わいづくりに関わりたいという意向を示す方が、86%となっています。

Web アンケートであることから、元々関心の高い方が回答している面はありますが、若者文化に関する施設整備については管理運営も含めて高い関心があるものと考えられます。

なお、自由記述では、例えばスケートパークについては屋根や照明等の具体的な設備や、常駐するインストラクターによる無料講習会の開催など、誰でも楽しめるための環境整備や運営手法に関する意見が多く、施設を整備するにあたっては、実際に施設を利用したことがある市内の愛好家や若者との意見交換が重要であると考えられます。

【自由記述による主な意見】

1	施設に必要な機能について
	<ul style="list-style-type: none">・ 小さい子供や初心者も楽しめる・ 室内又は屋根がある・ 世界大会が開催できる基準・ バリアフリー・ 複数のコンテンツが楽しめる
2	施設に必要な付帯設備について
	<ul style="list-style-type: none">・ ナイター設備・ 音響設備・ スポンジプールやレジーランプ (BMX)・ 鏡 (ダンス)・ 更衣室やシャワー・ 授乳室やおむつ交換台・ (応急処置ができる) 医務室・ 自動販売機

3 施設運営に関する要望について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金が無料又は安価であること ・ 初心者向けレッスン（講師がいること） ・ 安全のための利用規約の作成 ・ 用具のレンタルサービス
4 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストリートカルチャーを育むためには、時間をかけて小さい支援を積み重ねる必要がある ・ 「ストリートカルチャー＝不良」といったイメージを払拭したい ・ 施設の維持管理スタッフや講師として、管理運営に関わりたい ・ 知人からの誘いや、体験する機会があれば、興味が湧くかもしれない

(2) 市民車座集会での意見交換等

基本計画の策定にあたり、「若者文化の発信によるまちづくり」をテーマとした市民車座集会を次のとおり開催しました。

日 時：令和元(2019)年 5 月 18 日

会 場：旧新川崎鹿島田整備事務所（幸区）

参加者：本市を中心に若者文化に活動している地域の方々 24 名、傍聴者 14 名

集会では、東京 2020 大会を控え各地に若者文化に関する施設が整備されているなか、川崎では他に類を見ない施設を整備するべきではないか、といった意見や、街なかでも自由に活動することができるようにしてほしいといった意見、さらには、地域住民等の理解向上に向けて地域活動と一緒に取り組むべきである、といった意見が出されました。

また、今後も意見交換の場を継続していくことが必要だという意見があったため、市民車座集会を一つの契機として、様々な分野の垣根を越えた、たて・よこ・ななめの関係による地域人材のネットワークを構築することによりコミュニティを形成することが必要と考えられます。

【車座集会での主な意見】

1 現在の環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非公式で行っている活動が多い ・ 迷惑だと思われる ・ 少しずつ地域における認知度は向上しているが、まだ苦情はあり、苦情があるとどかざるを得ない
2 環境整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設を作るだけでなく、青少年育成や人材交流を含めた取組を進めてほしい ・ BMX フリースタイルについては、関東近県に難易度の高い技を練習するための設備が整った施設がない ・ 川崎市から強い選手を輩出できるようにするための練習施設が必要 ・ 音楽のまちづくりを参考とした、パフォーマンスする場のルール作り ・ 整備された施設だけでなく、駅前などの場でも活動したい

<p>3 今後に向けた取組について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さい子供から親世代までみんなが体験する機会の提供が必要 ・ 見てもらうことがコンテンツの理解につながる ・ 川崎市に人が集まるような魅力的な発信 ・ 行政が応援していることの発信 ・ 地域活動に参加することで、地域の理解を得る ・ メジャースポーツなどと連携した認知度向上、マーケット拡大
<p>4 その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 20～30 年後には、どこでもできることが当たり前になってほしい ・ 「川崎を世界へ」というテーマで、全力でできることをやっていきたい ・ メジャースポーツの選手と同じような憧れの存在になりたい ・ 意見交換の場を継続する

4 環境整備におけるコンセプト

基本方針で掲げた「若い世代が集い賑わうまち」をめざす観点から、若者にとって川崎を魅力あふれるまちにしていくために、若者文化に携わる市民一人ひとりが主役となって本市の若者文化を盛り上げていくことを基本的な考え方としています。

また、基本方針においては、「若い世代が集い賑わうまち」の実現に向けた取組として、これまで市内で育まれてきた若者文化を尊重することを前提に、若者文化に携わる市民が協働・連携して地域を盛り上げていける環境と安全・安心に活動できる環境が必要であり、環境整備のうち、市民だけでは若者文化を盛り上げるためには難しいと考えられる部分について、行政が支援を行うこととしています。

基本方針に示した基本的な考え方や取組の方針、そして、Web アンケートや市民車座集會などにおける意見なども踏まえ、「若い世代が集い賑わうまち」のイメージについては、具体的には次のように定義できます。

- | |
|---|
| <p>ア 市内のいたるところで、エクストリームスポーツやストリートカルチャーに興じている子どもや若者がいる風景が見られ、生活のなかに溶け込んでいる。→日常のシーン</p> <p>イ ワールドクラスの上級者でも楽しめるレベルの施設があり、週末には関東一円から集まった若者や家族連れで賑わっている。→非日常のシーン</p> <p>ウ 上記の施設で活躍するような地域人材を核にした若者文化に関するたて・よこ・ななめのコミュニティができ、常に相互連携が図られている。→日常のシーン</p> <p>エ 世界レベルの大会からローカルな大会まで毎月のように市内で開催され、まちが賑わっている。→非日常のシーン</p> <p>オ これらの結果、川崎に移住・定住する若者が増えるとともに、若者文化を通じて、次世代を担う子ども・若者の健やかな成長や、多様性を尊重する価値観の理解向上、健康づくりなどが行われている。→日常のシーン</p> |
|---|

上記のイメージを踏まえ、本計画におけるコンセプトを「行き交う日常と非日常」とします。

具体的に求められる施設については、日常のものとしては、学校や仕事帰りなどに気軽に立ち寄ることができる施設が身近にあること、非日常のものとしては、日常の施設を利用している愛好家が「いつかはここで」と憧れを持てるランドマーク的存在となる施設が市内にあるようなイメージです。

また、まち全体としては、施設が整備されているところだけではなく、日常のあらゆるところで若者文化が共存し、誰でもいつでも若者文化に触れることができるようなイメージです。

5 日常の施設の整備の方向性

(1) 基本的な考え方

若者文化は、本市のストリートカルチャーとしてしっかり根付いており、例えば、市内のいたるところで若者がダンスの練習に明け暮れてきたという歴史的な経緯などから、ブレイキンについては国内外から川崎が聖地として認知されているところです。

また、若者文化を支える人材についても、地元で育った人材が世界で活躍し、その人材のもとに若者が各地から市内に転居して一緒に活動したりコーチしてもらったりし、さらに、その若者が世界で活躍するという好循環が生まれているところです。

この状況を踏まえた上で、「4 環境整備におけるコンセプト」で示したイメージにあるように、「若者文化によるまちづくり」を考えたとき、若者文化が文化としてより成熟していくには多くの市民に認知され根付いた状態としていくことが必要ですが、そのためには、市内の随所で市民が若者文化に位置付けられたコンテンツに親しんでいる光景が見られる状態になることや、地域人材を中心としたコミュニティが形成されていることが望ましいと考えられます。

また、基本方針の策定に向けて実施したパブリックコメント（平成 30（2018）年 8～9 月実施）では、仕事や学校帰りに気軽に立ち寄って練習できる施設への要望が複数あったほか、Web アンケートの結果でも駅や学校・職場の近くへの施設整備を望む意見が多数ありました。

これらを踏まえ、日常の施設の整備にあたっては、将来的には、日常的に練習ができるような比較的小規模な施設が市内にバランス良く複数ある状態を目指すこととします。

なお、例えば、スポーツライミングについては、既に民間の施設が市内に複数あり、一部のスポーツセンターにも簡易的なものが設置されている状況があるほか、平成 26(2014)年には、本市で初となるスケートボードやインラインスケート、BMX を楽しめる施設として、大師河原公園内にスケートボードパークを開設しています。

こうした現状を踏まえ、日常の施設の整備にあたっては、本市としては、民間事業者による土地利用などの計画があった際に、日常の施設の整備を誘導するとともに、市全体の民間施設も含めてバランスを見ながら、民間で対応できないものについて取り組んでいく必要があるものです。

なお、施設の整備にあたっては、地域によって確保できる用地やニーズ等に差異があることなどから、全てのコンテンツが同じ場所にあることを前提とはしないこととします。

(2) 整備場所の考え方

若者文化のコンテンツに関する施設については、多くのスポーツ施設に見られるような各競技団体が定める標準的な面積・仕様が存在しません。例えば、スケートパークの場合、他都市の施設においては、数百㎡～1万㎡超まで様々なものが存在します。業界におけるこれまでの経験からは、最低600㎡、理想的には2,400㎡以上が必要と言われていますが、日常的に練習ができるような施設については、これまでの他都市事例などから概ね1,000㎡程度あれば十分であると考えられます。

また、学校や仕事帰りに気軽に立ち寄れる立地を考えたとき、鉄道駅から比較的近傍であることや夜間の利用が可能であることが望ましく、その場合、市街地・住宅地への整備となることから、地域住民の理解が得られていることなどが整備場所の基本的な条件となります。

なお、非日常施設と複合的に整備する場合も想定されますが、その場合、整備場所の制約について、この限りではありません。

日常の施設を単独で整備する場所としては、既存の公園や低未利用地などを想定していますが、

現段階では、上記の条件を満たす適当な候補地が見当たらないのが現状です。

したがって、当面は後述する地域ごとの体験会などの開催により若者文化の認知度向上や機運醸成を図り、地域のなかで具体的な施設へのニーズが高まったところから日常の施設の整備に向けた取組を開始するものとし、将来的に市内にバランス良く複数の施設がある状態をめざすものとします。

(3) 施設整備・管理運営について

民間では対応できない日常の施設の整備・管理運営にあたっては、大師河原公園内のスケートボードパークと同様、本市による施設整備・運営について検討するほか、他都市でも例のある利用者による手作りの施設の設置・管理運営などについても検討します。

6 非日常の施設の整備の方向性

(1) 基本的な考え方

「4 環境整備におけるコンセプト」で示したイメージにあるように、本市が「若い世代が集い賑わうまち」となるためには、関東一円から若者や家族連れが集い賑わっている状態をめざしていくことが必要であり、そのためには、若者文化のランドマーク的存在となるようなワールドクラスの上級者でも十分に楽しめる魅力ある施設を整備する必要があります。

また、このような非日常を体験できる施設が市内に存在することで、日常の施設を利用している人たちの中に「いつかはそこでプレイしてみたい」という憧れや目標が生まれ、そのことが本市における若者文化の成熟につながっていくと考えられます。

本市で例えるならば、文化芸術の場合、日常は学校の音楽室や市民館などで音楽を楽しんでいる人が、いつかは世界最高水準の音響を誇るミュゼ川崎シンフォニーホールで演奏してみたい、といった感覚や、スポーツの場合、普段は校庭などでサッカーをしている人が、いつかは川崎フロンターレのホームグラウンドである等々力陸上競技場でプレイしてみたい、といった感覚です。

現在、東京 2020 大会を契機に、地方自治体による若者文化に関する大型施設の新設が全国で続いています。本市の地域資源である若者文化を有効的に活用し、「若い世代が集い賑わうまち」をめざすため、地域間競争に負けないよう、本市としては、下記に掲げるような近隣の大型施設を上回る魅力を持つ、誰もが憧れを抱き続けるランドマーク的な非日常の施設を、まず本市内に 1 か所整備していきます。

■ 関東地方の主な非日常の施設(詳細は資料編を参照)

施設名称(所在地)		面積	特徴
戸吹スポーツ公園スケートパーク (八王子市)		約 4,100 m ²	<ul style="list-style-type: none"> 国内最大級のコンクリートパークという事業コンセプト 滑走面の苦情が無いように、年に一度 2 日間閉鎖し大規模な補修工事を実施 月に 2 回、小学生から大人のビギナーまでを対象としたスケートボード教室を開催
鶴沼海浜公園スケートパーク (藤沢市)		約 15,000 m ²	<ul style="list-style-type: none"> 6 つのスケートボードエリア(ストリートリンク、ミニランプ、ビギナーズ、センター、コンビプール、ロードサイド) 上級者向けのコンビプールから、ビギナーが楽しめるエリアまでを備えた総合的なスケートパーク
新横浜公園 (横浜市)	スケボー広場	約 7,000 m ²	<ul style="list-style-type: none"> 関東最大級の面積 市民が誰でも日常的に利用できる仕様 無料で利用可能
	インラインスケート広場	約 6,000 m ²	
	バスケットボール広場 (3by3)	約 3,000 m ²	

施設名称(所在地)	面積	特徴
小山公園ニュースポーツ広場 (相模原市)	約 2,900 m ²	<ul style="list-style-type: none"> • スケートボードエリア、3 by 3 バスケットボールエリア、ストリートダンスエリア（ダンス用鏡 3 面、屋根）が揃っている。 • 無料で利用可能

(2) 整備場所の考え方

ア 十分な面積の用地を確保できること

前述のように、若者文化に関するコンテンツについては、多くのスポーツ施設に見られるような各競技団体が定める標準的な面積・仕様が存在しません。スケートパークの場合、理想的には 2,400 m²以上が必要とされていますが、例えばスケートボードと BMX フリースタイル、インラインスケートでは、同じスケートパークを滑ることはできるものの、構造物(セクション)の配置など、それぞれの利害が必ずしも一致しないことから、別々に施設を用意することが望ましいとされています。

また、その他のコンテンツについてもスケートパークと併設することによって、利用者の交流が生まれ賑わいが創出される効果が期待できるため、その分の面積を確保することが望ましいと考えます。

こうしたことから、本計画においては、下記の考え方に基づき十分な面積(概ね 5,000 m²以上)を確保できることが整備場所の必須条件となります。

ア 複数のコンテンツが設置可能であること

スケートボードであれば、2,400 m²程度が必要とされていますが、他のコンテンツを併設するためには、その分の面積をさらに確保する必要があります。

イ ワールドクラスの上級者でも楽しめるレベルであること

ウ ランドマーク的施設としてふさわしい付帯設備が設置可能であること

施設維持管理や運営にあたり、管理事務室や更衣室、シャワー室などを設置するための面積も考慮する必要があります。

エ 需要見込みに応じた駐車場が併設可能であること

イ 施設の着工・開設時期が見通せること

東京 2020 大会において、スケートボードや BMX フリースタイルが新種目として採用されたことや、パリ 2024 オリンピック競技大会ではブレイキンが新競技の最終候補として残っているなど、若者文化は本市だけでなく社会的にも大きな盛り上がりを見せています。

本計画は、本市に息づく若者文化の発信によりまちづくりを進めていくために策定するものであり、必ずしもオリンピックに乗じる必要はないものの、オリンピックが社会的な機運が上昇するきっかけであることは間違いないこと、また、市内において若者文化に関する世界的なイベントが相次いで開催されている昨今の状況もあることから、この機運を積極的に活用するため、施設の開設スケジュールについては東京 2020 大会の開催時期を一つの目安とし、同時期前後に開設できる場所が整備場所として望ましいと考えます。

ウ 地域住民に配慮する必要があること

土日を中心に多くの来客が見込まれることから、非日常の施設は地域住民の環境に影響を及ぼす可能性があります。そのため、周辺に市街地や住宅地がある場合、その整備に当たり、地域住民の理解が得られることが必要になります。

(3) 具体的な整備場所について

非日常の施設を整備できる可能性のある一定程度の面積を有する市有地について、次表のとおり抽出し、整備の可能性について検討したところ、近隣の企業や港湾事業者等への配慮が必要ではあるものの、地域住民の環境に影響を及ぼす可能性が低く、既存の行政計画において非日常の施設の位置づけが可能であり、かつ、東京 2020 大会の開催時期の前後に施設の着工・開設できる可能性のある市有地としては、臨港地区にあるちどり公園が候補に挙げられます。

上記を踏まえ、非日常の施設については、ちどり公園において整備を図る方向で検討を進めるものとします。

なお、ちどり公園における環境整備に際しては、「川崎港緑化基本計画（平成 28(2016)年 9 月策定）」におけるちどり公園の位置づけなどを踏まえながら、「休憩場所の更新」、「散策路・遊歩道の充実」、「駐車施設の拡充」、「災害時のオープンスペースの拡張」、「レジャー・スポーツ関連施設の配置」及び「利便施設の設置」等、市民や就業者が港に親しめるような機能の充実にも取り組むこととします。

■ 非日常の施設を整備できる可能性がある一定程度の面積を有する市有地

名称	関連計画	現在の状況	今後のスケジュール
ちどり公園 36,000 m ²	川崎港緑化基本計画	港湾緑地の有効活用に向けて、ちどり公園を含めて、サウンディング調査を検討している。	川崎港緑化基本計画において、平成 30 年代後半までに「趣味やスポーツ等を楽しめることができる広く明るい開放的な空間を配置する。」こととしている。
浮島 1 期地区 505,000 m ²	浮島 1 期地区土地利用基本方針 川崎港緑化基本計画	本格的な土地利用に向けて検討している。	浮島 1 期地区土地利用基本方針に基づく、ゾーニング方針に基づいた取組を進める。 市街化調整区域のため、本格的な利活用には市街化区域への編入等、所要の手続きが必要

名称		関連計画	現在の状況	今後のスケジュール
富士見公園 162,901 m ²	エントランスゾーン	富士見周辺地区整備推進計画エリア別公園整備方針(案)	エントランスゾーンを「富士見の顔」となり、イベントや交流の場となる多目的広場を整備することになっている。	令和元（2019）年度に再編整備基本計画を策定予定。再編整備のスケジュールは基本計画策定の中で検討予定
	富士見中学校北側エリア		富士見中学校北側エリアに富士見の顔に相応しい活用となる様、多様な活用が可能な市民利用施設をすることとなっている。	
等々力緑地(等々力水処理センター上部) 63,000 m ²		等々力緑地再編整備実施計画	等々力水処理センターは、令和6（2024）年度の完成予定であり、その後、速やかに施設上部の公園整備を進めることとしているが、整備内容については、少年野球場の請願など様々な要望を含め、等々力緑地全体の民間活力の効果的な活用の中で、併せて検討することとしている。	緑地全体の民間活力の効果的な活用の中で検討
生田浄水場(スポーツ広場) 33,000 m ²		生田浄水場用地の有効利用に関する整備計画	公式サッカーグラウンドが1～2面入る程度の面積のグラウンドや照明設備を備えたテニスコートを整備するほか、「その他のスポーツ施設やスポーツと親和性のある施設」の整備も可能としている。	平成30（2018）年度に公募要件の整理を行い、令和元（2019）年度に事業者を決定。アセス等の必要な手続きを行ったうえで、令和3（2021）年度から事業者による整備を開始し、令和4（2022）年度以降供用開始の予定

【参考：川崎港とちどり公園について】

川崎港については、市民からの要望として「物流機能」としての役割にとどまらずに「海に触れ合う場の提供、交流拠点の充実、景観を良くする緑地整備」が求められており、平成28年9月に策定した「川崎港緑化基本計画」では、ちどり公園をはじめとした港湾緑地の活性化と機能充実に取り組むこと、貴重な空間を市民にアピールし、訪れる市民の憩いの場となるよう港湾緑地の維持管理の向上に努めながら「市民に開かれた臨海部」を目指すことが位置付けられています。

さらに、ちどり公園については、災害発生時には避難場所や延焼防止のオープンスペースとして機能するとともに、耐震強化岸壁の千鳥町7号岸壁からの緊急物資の荷捌きの場として活用する必

要があることから、広大なオープンスペースが必要となる一方で、東扇島の埋立前のシンボル緑地として整備された自転車で唯一アクセス可能な「市民の交流拠点の場」として位置づけられています。

(4) 施設整備・管理運営について

現在、全国各地で整備が進んでいる非日常の施設のうち、大規模な施設については、そのほとんどが地方自治体による整備となっています。

これは、他のスポーツ施設と同様に施設利用料を一人あたり数百円程度に設定せざるを得ないため、施設利用料だけでは維持管理費・整備費を含めた収支が成り立たないことによります（他都市等における類似施設の例でも施設利用料は 1 回あたり数百円程度となっており、施設使用料のみで収支が成り立っている例はありません）。

そのため、非日常の施設の整備・管理運営については、地方自治体による支援は必須と考えます。

一方、広告宣伝収入の獲得や講習会の実施などの民間事業者ならではのノウハウの活用が可能となることから、民間事業者が事業を実施する場合、地方自治体単独の場合に比べ、低コストでの施設の整備・管理運営が可能となります。

加えて、ワールドクラスの上級者でも楽しめる、国内に前例のないような魅力のある施設を整備し、管理運営にあたっては、例えばスケートパークのセクションであればその時々々の時流に沿ったものとなるよう微修正を続け、利用者の意見を踏まえながら常に管理運営の改善を図るなど、ハード・ソフトの両面において常に進化し続ける魅力ある施設を維持するためには、ノウハウのない地方自治体ではなく、技術面を含めさまざまなノウハウを蓄積している民間事業者による整備・管理運営が望ましいものと考えられます。

以上のことから、非日常の施設のうち大規模施設の整備・管理運営については、他の本市の施設とは有する性格が大きく異なることから、既存の事業手法の枠組みではなく、新たな民間活力導入手法となる、市と民間事業者が連携する共同事業として実施することを前提として事業を進めます。

なお、公募条件等の具体化にあたっては、民間事業者へのサウンディング調査を実施することとします（公募条件設定にあたっては、東京 2020 大会後に解体予定とされている競技会場である有明アーバンスポーツパークをそのまま残して活用する案などの、他施設の整備動向を踏まえた対応が必要です）。

また、非日常の施設に隣接して日常の施設を設置する場合、他の日常の施設と同様、民設民営が難しい場合も想定されることから、その場合の管理運営費用の負担や、路面の整備や除草など必要最小限の再整備については本市が実施する必要があります。

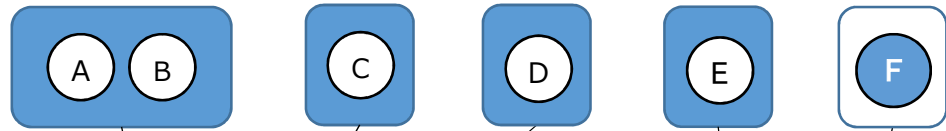
(5) 具体的な整備内容について

非日常の施設の整備においては、場所の制約やサウンディング調査の結果、本計画に位置付けられたコンテンツが、必ずしも 100%整備されるとは限りません。また、例えば市内には民間のスポーツライミングの施設が平成 31(2019 年)年 4 月時点で 8 か所あるほか、一部のスポーツセンターにも簡易的なものが設置されている状況もあります。

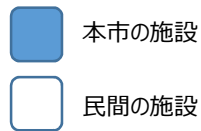
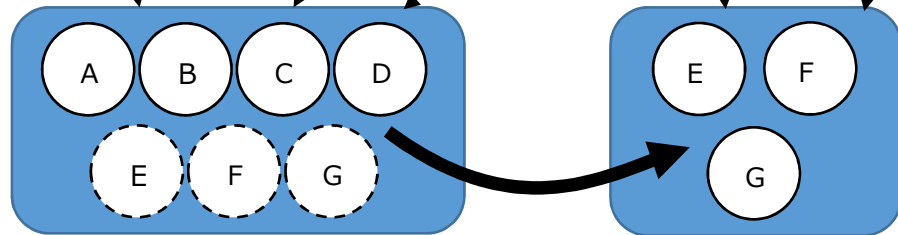
非日常の施設についても、困難な場合は非日常の施設へのコンテンツの 1 か所集中にこだわることなく、今後、適地が出た際に、民間による整備の状況も踏まえつつ、上記の日常の施設整備の考え方に基づいた対応を行います。

● 整備場所とコンテンツの関係イメージ(A～Gのコンテンツがあった場合)

【日常的に使用できる施設】



【非日常の施設】



1か所での整備が難しい場合は
非日常の施設を別の場所に確保

7 ソフト面での取組の方向性

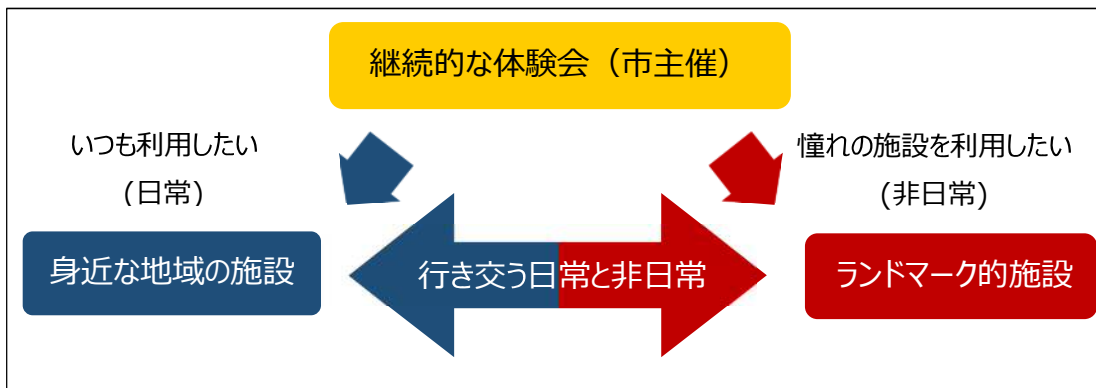
(1) コミュニティの形成

市民車座集会を一つの契機として、様々な分野の垣根を越えた、たて・よこ・ななめの関係による地域人材のネットワークを構築することによりコミュニティを形成するため、当面の間は、行政によるマッチング支援や意見交換をする機会の創出、大会開催の支援、既存イベントを活用したデモンストレーションを実施するための取組を行うこととします。

(2) 体験会の開催

若者文化をより地域に根付かせていくため、若者文化の地域での理解向上と機運醸成を図るとともに、さらなる地域人材の発掘・育成につなげることを目的として、次のようなイメージで今後、若者文化の体験会を開催することとします。

【体験会と施設との関係】



8 今後のスケジュール

本計画は、本市に息づく若者文化の発信によりまちづくりを進めていくために策定するものであることから、必ずしも東京 2020 大会に乗じる必要はありません。しかし、同大会が社会的な機運が上昇するきっかけであることが間違いないこと、また、市内では若者文化に関する世界的なイベントが相次いで開催されている昨今の状況もあることから、この機運を上手に活用する必要もあると考えます。

そのため、ハード面での支援（特に非日常の施設）については、東京 2020 大会の開催時期を整備の一つの目安とします。

また、ソフト面での支援についても、東京 2020 大会による機運上昇を上手に活用しながら、大会開催の支援や既存イベントを活用したデモンストレーション、地域での体験会などを通じて地域における若者文化の認知、理解を進めていくものとします。

なお、これらの取組を進めるにあたっては、市内の愛好家を中心としたコミュニティによる意見交換などを活用しながら進めることとします。

今後 5 年間のスケジュール（非日常の施設については、運営開始後 10 年程度の事業期間を想定）

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
ハード面	●サウンディング調査	●共同事業者選定 施設整備	●運営開始		
		→		地域での機運が醸成されたところから整備を検討	
ソフト面	マッチング支援・意見交換をする機会の創出・大会開催の支援				
	既存イベントを活用したデモンストレーションの実施				
	体験会の開催				

資料編

市民アンケート結果22 ページ

事例調査結果28 ページ

【市民アンケート結果】

(1) アンケート手法：Webアンケート（市ホームページへの掲載）

(2) アンケート目的：市民の意向やニーズ把握

主文：将来の人口減少社会を見据え、若い世代をはじめ、あらゆる世代が活躍する持続可能な街づくりを推進するため、川崎らしい地域資源である若者文化（BMX、スケートボード、ブレイクダンス等）を発信することで市の魅力を高め「若い世代が集い賑わうまち」を目指している。本アンケートは、上記まちづくりの関する基本計画策定にあたって、広く市民の皆さま他のご意見を伺う調査。

(3) アンケート対象：市民

(4) アンケート期間：平成 31 年 2 月 28 日（木）～3 月 15 日（金）

(5) 回答数：344

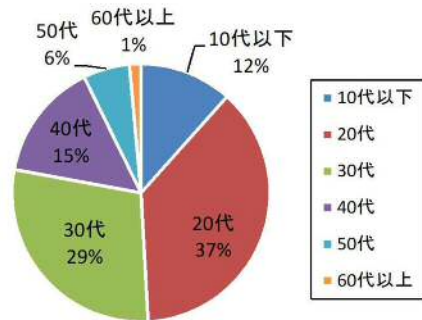
(1) 実施結果の整理

1) 選択回答

【属性】

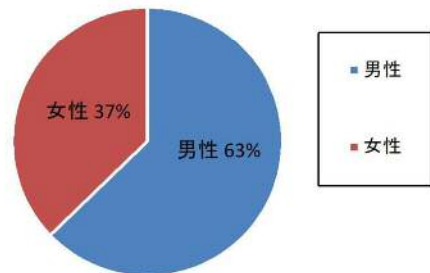
1 年齢

	回答数	割合
① 10代以下	40	12%
② 20代	129	38%
③ 30代	99	29%
④ 40代	51	15%
⑤ 50代	20	6%
⑥ 60代以上	5	1%
計	344	100%



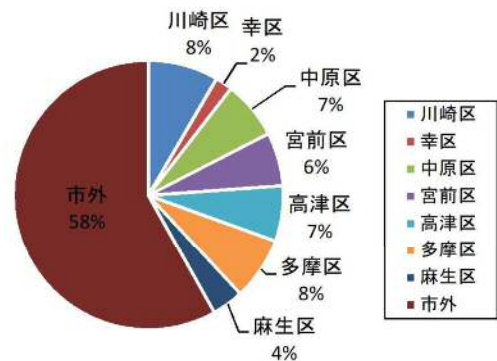
2 性別

	回答数	割合
① 男性	216	63%
② 女性	128	37%
計	344	100%



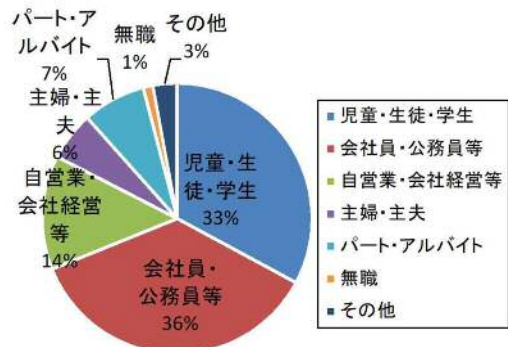
3 お住まい

	回答数	割合
① 川崎区	29	8%
② 幸区	7	2%
③ 中原区	24	7%
④ 宮前区	22	6%
⑤ 高津区	23	7%
⑥ 多摩区	26	8%
⑦ 麻生区	13	4%
⑧ 市外	200	58%
計	344	100%



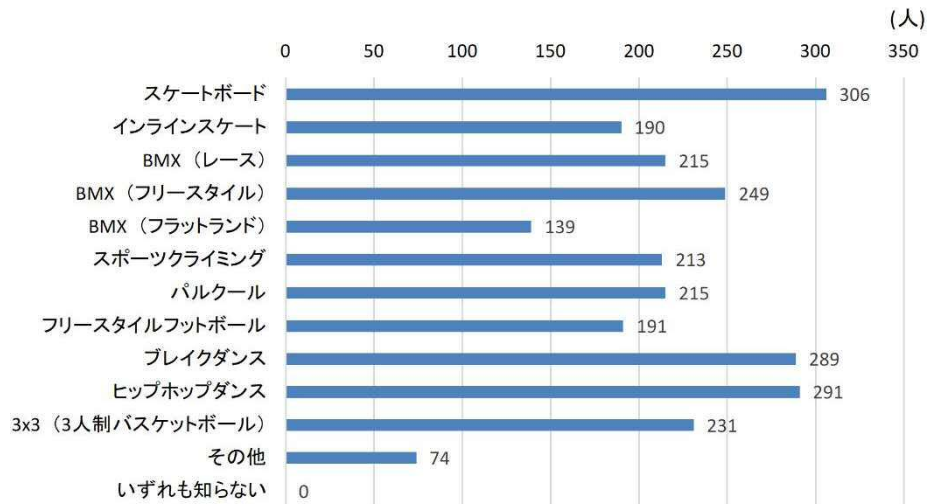
4 職業他

	回答数	割合
① 児童・生徒・学生	113	33%
② 会社員・公務員等	124	36%
③ 自営業・会社経営等	47	14%
④ 主婦・主夫	20	6%
⑤ パート・アルバイト	26	8%
⑥ 無職	4	1%
⑦ その他	10	3%
計	344	100%

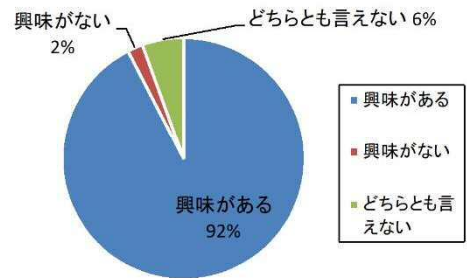


【設問】

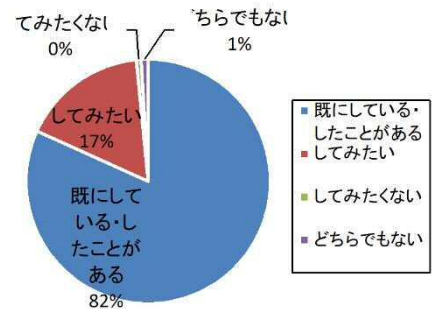
Q1 認知度	回答数	割合 (複数回答)
スケートボード	306	89%
インラインスケート	190	55%
BMX(レース)	215	63%
BMX(フリースタイル)	249	72%
BMX(フラットランド)	139	40%
スポーツクライミング	213	62%
パルクール	215	63%
フリースタイルフットボール	191	56%
ブレイクダンス	289	84%
ヒップホップダンス	291	85%
3x3(3人制バスケットボール)	231	67%
その他	74	22%
いずれも知らない	0	0%
計	2603	757%



Q2 興味・関心	回答数	割合
興味がある	318	92%
興味がない	7	2%
どちらとも言えない	19	6%
計	344	100%



Q3 参加可否	回答数	割合
既に行っている・したことがある	260	82%
してみたい	53	17%
してみたくない	2	1%
どちらでもない	3	1%
計	318	100%



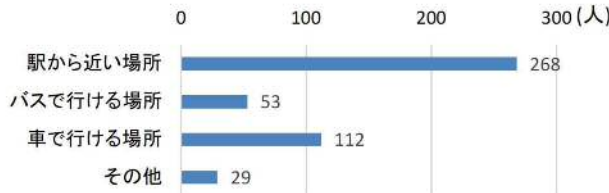
※Q2の「どちらとも言えない」と答えた人が全て無回答であったため、「興味がある」と答えた人数318人を分母にして割合を算出

【設問】

Q4 参加条件・立地条件 (複数回答)

	回答数	割合
駅から近い場所	268	86%
バスで行ける場所	53	17%
車で行ける場所	112	36%
その他	29	9%
計	462	148%

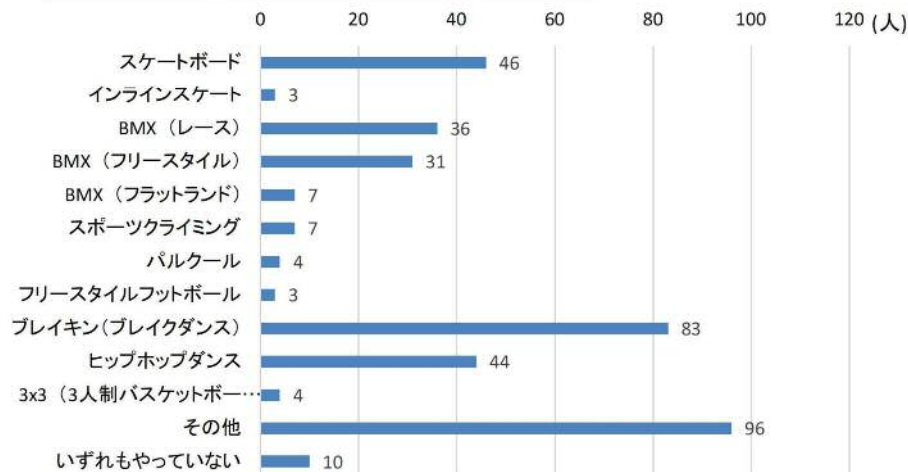
※Q2「既にしている…」-260人、「してみたい」-53人より割合算出の分母は313人



Q6 活動実態・要望等 (複数回答)

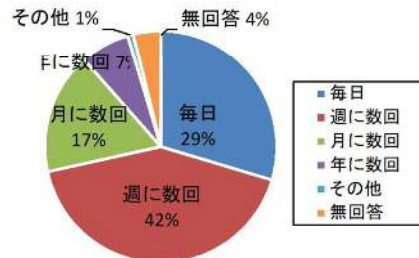
	回答数	割合
スケートボード	46	18%
インラインスケート	3	1%
BMX(レース)	36	14%
BMX(フリースタイル)	31	12%
BMX(フラットランド)	7	3%
スポーツクライミング	7	3%
パルクール	4	2%
フリースタイルフットボール	3	1%
ブレイキン(ブレイクダンス)	83	32%
ヒップホップダンス	44	17%
3x3(3人制バスケットボール)	4	2%
その他	96	37%
いずれもやっていない	10	4%
計	374	144%

※Q2「してみたい」のうち15人が回答しているが設問の条件から外れるため集計から除外。Q15まで同様とする。



Q7 活動実態・要望等

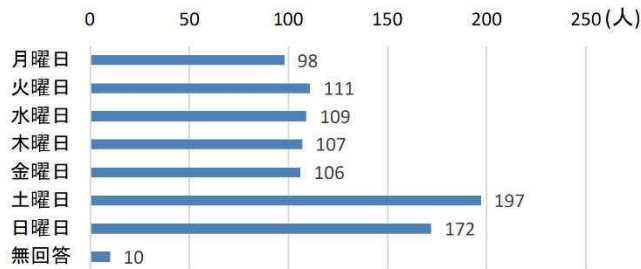
	回答数	割合
毎日	77	30%
週に数回	109	42%
月に数回	44	17%
年に数回	18	7%
その他	2	1%
無回答	10	4%
計	260	100%



【設問】

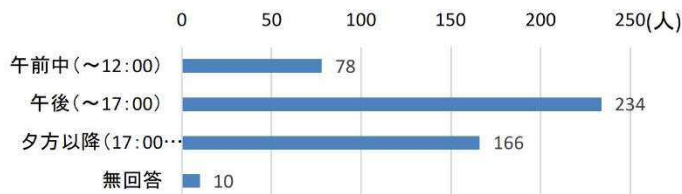
Q8 活動実態・要望等 (複数回答)

	回答数	割合
月曜日	98	38%
火曜日	111	43%
水曜日	109	42%
木曜日	107	41%
金曜日	106	41%
土曜日	197	76%
日曜日	172	66%
無回答	10	4%
計	910	350%



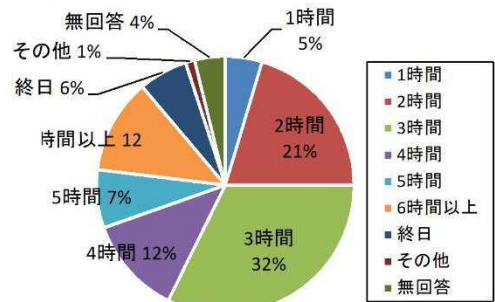
Q9 活動実態・要望等 (複数回答)

	回答数	割合
午前中(～12:00)	78	30%
午後(～17:00)	234	90%
夕方以降(17:00～)	166	64%
無回答	10	4%
計	488	188%



Q10 活動実態・要望等

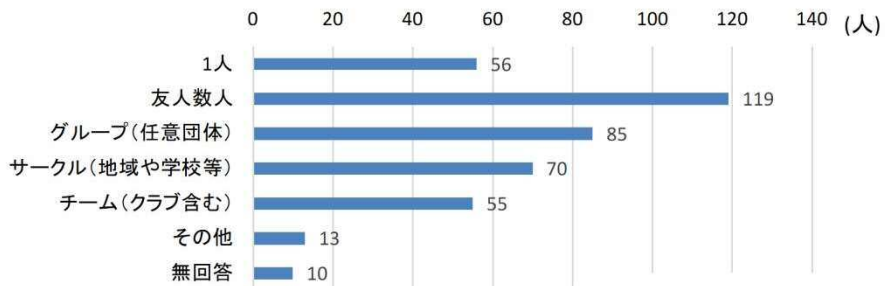
	回答数	割合
1時間	12	5%
2時間	53	20%
3時間	84	32%
4時間	32	12%
5時間	19	7%
6時間以上	31	12%
終日	16	6%
その他	3	1%
無回答	10	4%
計	260	100%



【設問】

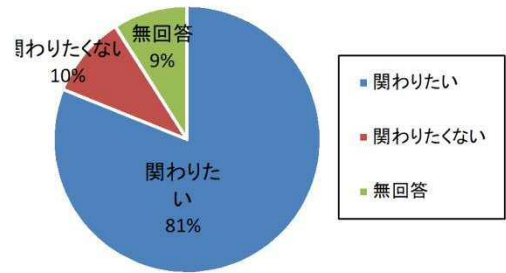
Q11 活動実態・要望等

	回答数	割合	(複数回答)
1人	56	22%	
友人数人	119	46%	
グループ(任意団体)	85	33%	
サークル(地域や学校等)	70	27%	
チーム(クラブ含む)	55	21%	
その他	13	5%	
無回答	10	4%	
計	408	157%	



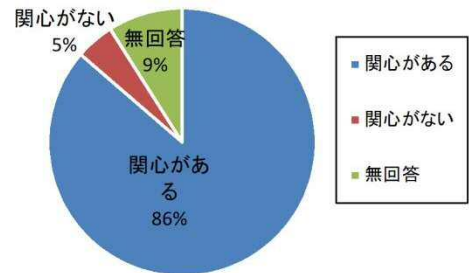
Q14 活動実態・要望等

	回答数	割合
関わりたい	279	81%
関わりたくない	34	10%
無回答	31	9%
計	344	100%



Q16 活動実態・要望等

	回答数	割合
関心がある	297	86%
関心がない	16	5%
無回答	31	9%
計	344	100%



【事例調査結果】

名称	①戸吹スポーツ公園スケートパーク（約 4,100 m ² ） [※2011年4月1日開設]	②WaiWai ドームしもつまスケートボードパーク 「B.E. step125 -shimotsuma-」（約 700 m ² ） [※2017年4月27日開設]														
関係者との合意形成	利用団体として八王子スケートボード協会から助言を受け事業を実施した。	整備前には社会実験（仮設のスケートパークを設営）を行い、ニーズを調査後、実際の設計や整備後の運営方法などについて、地元スケーターなどが中心となったワークショップを開催し合意形成を図った。														
整備場所の選定経緯	戸吹最終処分場の跡地であり、若手職員による戸吹総合スポーツ施設整備基本計画作成委員会で、若手職員の自由な発想により公園計画が作成された。	かつては商業施設が立地していた中心市街地内の大規模遊休地を活用して開設した。														
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートパーク：4,100 m² ● BMX ● インラインスケート ● 駐車場：151台（普通車）、3台（大型車）、3台（障害者用）、2台（思いやり駐車スペース）、80台（二輪車） 	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートパーク（滑走面積）：約 700 m² ● 駐車場：約 70台（周辺施設と共用） ※ フルコンクリートのパークで、ストリートとボウル、初心者から上級者まで利用できるようにゾーンを配置した。														
事業コンセプト	国内最大級のコンクリートパーク	「初心者上級者、ローカル〜来街者まで多様な人々が利用しやすく自然に交流が育まれるパーク」														
事業スキーム	公設民営	公設公営														
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	八王子市都市公園条例	下妻市にぎわい広場の設置及び管理に関する条例														
事業費 (調査・整備・運営)	調査費（約 2,030 千円）※公園全体費用 整備費（約 195,041 千円）※スケートパークのみ 運営費（約 14,000 千円）※概算	調査費（―） ※周辺施設と一体的に調査している為、個別の算出は不可 整備費（97,000 千円） 運営費（―） ※周辺施設と一体的に調査している為、個別の算出は不可														
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 滑走面の苦情が無いように、年に一度 2 日間閉鎖し大規模な補修工事を実施しつつ、軽微な補修については毎日の点検で発見次第実施し、常に良好な状態にしている。 ● 小学生から大人のビギナー向けにスケートボード教室を開催している。（月 2 回） ● 誰もが安全・安心でいつでも楽しく利用できるようにルール違反者へは注意を徹底している。 	—														
所在地	東京都八王子市戸吹町 1746-1 JR 八王子駅 バス 京王線八王子駅 バス	茨城県下妻市下妻丁 91 Waiwai ドームしもつま内 関東鉄道常総線「下妻駅」より、徒歩約 10 分														
設置者（所管）	八王子市（まちなみ整備部 公園課）	下妻市（都市整備課都市計画係）														
管理者	指定管理者：スポーツコミュニティー戸吹	下妻市（都市整備課都市計画係）														
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども (中学生以下)</td> <td>250 円</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>500 円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	子ども (中学生以下)	250 円	大人	500 円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成年</td> <td>100 円/日（1 人あたり）</td> </tr> <tr> <td>未成年</td> <td>50 円/日（1 人あたり、市内在住の未成年は無料）</td> </tr> <tr> <td>貸切利用</td> <td>20,000 円/日</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	成年	100 円/日（1 人あたり）	未成年	50 円/日（1 人あたり、市内在住の未成年は無料）	貸切利用	20,000 円/日
区分	金額															
子ども (中学生以下)	250 円															
大人	500 円															
区分	金額															
成年	100 円/日（1 人あたり）															
未成年	50 円/日（1 人あたり、市内在住の未成年は無料）															
貸切利用	20,000 円/日															
営業時間	8：00～22：00 ※年中無休	9:00～21:00 ※毎週火曜定休														
写真																

【事例調査結果】

名称	③八潮北公園スケートボード場 (600㎡) [※2017年11月20日開設]	④上谷総合公園スケートパーク (1317㎡) [※2015年4月25日開設]																		
関係者との合意形成	日本スケートボード協会と協議を重ね、助言を受けつつ、具体的な施設設計を行った。	—																		
整備場所の選定経緯	既存の公園の中から、「公園周辺に住宅が無い」「最寄り駅から公園までのアクセス道路に歩行者が少ない」といった、将来的にトラブルの発生が少ないと思われる場所を選定した。	鴻巣市民プール跡地の公園整備に合わせて設置した。																		
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートゾーン：600㎡ ● 駐車場：27台 (インラインスケート、スケートボードが利用できるパーク) ※ プロ仕様とは異なり、コンクリート製セクション、置型セクションおよびアスファルト舗装（ローラースポーツ用トップコート）から構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートパーク：1,317㎡ (セクション10基：ボウル・バンク4ft・バンク to バンククォーターランプ4ft・バンク to バンク複合・クォーターランプ6ft・バンク6ft・ロンチランプ・キンクレール・フラットレール) ※ 繊維圧縮板 ※ 初心者から上級者まで利用可能なコースバリエーションに富んだコース設定																		
事業コンセプト	ストリートに特化したオリジナル性のあるコンクリートパーク	初心者から上級者まで利用出来る施設																		
事業スキーム	公設民営	公設民営																		
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	品川区立公園条例	鴻巣市都市公園条例 鴻巣市都市公園条例施行規則																		
事業費 (調査・整備・運営)	調査費 (1,700千円) 整備費 (60,000千円) 運営費 (—) ※八潮北公園の他に6公園管理しているため、詳細な内訳は不明	調査費 (—) 整備費 (約58,524千円)、 運営費 (4,601千円) ※H30年度指定管理料)																		
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎月1回、初心者を対象としたスケートボード教室を開催し、スケートボードの振興とマナー向上の啓発を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用人数向上のため、指定管理者によるスケートボード教室や大会を開催 ● 事故防止のため、ヘルメット着用を義務化 ● 地元愛好家からのセクション寄贈を受け入れ ● ヘルメット、サポーター、ボードのレンタル・販売を実施 ● コンクリート舗装のため、夏場は照り返しが厳しく利用者が減少するため、夏期は日差しを設置 ● 夜間侵入が数回発生したため、警察へ夜間巡回依頼 																		
所在地	東京都品川区八潮 1-3-1 りんかい線 品川シーサイド駅 徒歩8分	埼玉県鴻巣市上谷 707番地 JR高崎線 鴻巣駅よりバス																		
設置者(所管)	品川区(防災まちづくり部公園課公園維持担当)	鴻巣市(都市計画課公園緑地担当)																		
管理者	日本体育施設株式会社	シンコースポーツ(株)・(株)サンワックス共同事業体																		
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>品川区民 (在勤・在学含む)</th> <th>品川区民外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生以上</td> <td>200円/1日</td> <td>400円/1日</td> </tr> <tr> <td>小学生以下</td> <td>100円/1日</td> <td>200円/1日</td> </tr> </tbody> </table> ※区内在住の70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は利用料免除		品川区民 (在勤・在学含む)	品川区民外	中学生以上	200円/1日	400円/1日	小学生以下	100円/1日	200円/1日	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>鴻巣市在住・在勤、 北本市、桶川市在住 の方</th> <th>左記以外の方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td> <td>200円</td> <td>400円</td> </tr> <tr> <td>中学生以下</td> <td>100円</td> <td>200円</td> </tr> </tbody> </table>		鴻巣市在住・在勤、 北本市、桶川市在住 の方	左記以外の方	一般	200円	400円	中学生以下	100円	200円
	品川区民 (在勤・在学含む)	品川区民外																		
中学生以上	200円/1日	400円/1日																		
小学生以下	100円/1日	200円/1日																		
	鴻巣市在住・在勤、 北本市、桶川市在住 の方	左記以外の方																		
一般	200円	400円																		
中学生以下	100円	200円																		
営業時間	9:00~21:00 ※入場の受付は20時15分まで ※年末年始・雨天/降雪時は休場	夏季(4月から9月まで) 8:00~18:00 冬季(10月から3月まで) 8:00~16:00																		
写真																				

【事例調査結果】

名称	⑤富山市ストリートスポーツパーク (10,526㎡) (NIXS スポーツアカデミー) [※2014年5月開設]	⑥新横浜公園 (501,667㎡) [※2010年6月リニューアルオープン]								
関係者との合意形成	設計時に、アメリカのカリフォルニアスケートパーク社の監修を受けている。また、市アクティブスポーツ協会（スケートボード、BMX等の愛好者団体）から、利用者目線での助言などをいただき参考とした。	なし								
整備場所の選定経緯	富山県のカドミウム汚染田復元事業の残土置場として利用されていた土地を復元事業終了に伴い、農地への復元よりも他用途への転用の声が多かったことなどから、これまで体感、体験できる施設の無かったストリート系スポーツ拠点として、北陸新幹線が開通する平成26年度の供用開始を目指し整備した。	新横浜公園は規模が大きく、騒音対策や安全性が確保され、周辺に及ぼす影響も少ないなどの条件がそろっているため。								
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートゾーン：5,400㎡ (スケートボード、BMX、インラインスケート) ● ダンスゾーン：250㎡ ● ボルタリングゾーン：250㎡ ● 管理棟：105.43㎡ ● 駐車場：111台（普通車109台、マイクロ2台） ※ スケートゾーンは大会開催が可能なプロ仕様（H26 MAKE IT COUNT コンテスト開催）	<ul style="list-style-type: none"> ● スケボー広場(スケートボード、インラインスケート、BMX)：約7,000㎡ ※市民が誰でも日常的に利用できる仕様 ● インラインスケート広場：約6,000㎡ ● バスケットボール広場(3by3)：約3,000㎡ ● 駐車場：663台 								
事業コンセプト	スケートボードやBMXなどが楽しめるスケートゾーン、ロープなどを使わずにコンクリートの壁を登るボルタリングゾーン、ヒップホップなどのダンスステージのあるダンスゾーンの3つのゾーンからなる日本最大級のストリートスポーツ施設	スポーツの拠点として、特に若者を中心に人気を集めているスケートボードやインラインスケート・BMXなどのニュースポーツに対応する。								
事業スキーム	公設公営	公設民営								
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	富山市スポーツ施設条例	横浜市都市公園条例								
事業費 (調査・整備・運営)	調査費 (88千円 ※H25年度) 整備費 (953,018千円) 運営費 (14,199千円 ※H29年度)	調査費 (—)、 整備費 (126,000千円) ※H22年整備 運営費 (—) ※スケボー広場の補修費及び点検費は100万円/年程度								
運営上の工夫	● 競技振興のため、地元のショップや愛好者団体などに大会や教室を開催してもらっている。	—								
所在地	富山市婦中町下轡田 759 番地 1 JR 富山駅から バス約 30 分	横浜市港北区小机町 3300 新幹線・横浜線新横浜駅 徒歩 14 分 横浜線小机駅 徒歩 7 分								
設置者(所管)	富山市(市民生活部スポーツ健康施設管理係)	横浜市(環境創造局北部公園緑地事務所)								
管理者	富山市市民生活部スポーツ健康課 ※「NIXS スポーツアカデミー」はネーミングライツ	指定管理者：横浜市体育協会・管理JV共同事業体								
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">スケートゾーン</td> <td>中学生以下 200 円/回</td> </tr> <tr> <td>一般 400 円/回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ボルタリングゾーン</td> <td>中学生以下 150 円/2H</td> </tr> <tr> <td>一般 300 円/2H</td> </tr> </tbody> </table> ※ダンスゾーンは無料（個人利用のみ）	区分	金額	スケートゾーン	中学生以下 200 円/回	一般 400 円/回	ボルタリングゾーン	中学生以下 150 円/2H	一般 300 円/2H	無料
区分	金額									
スケートゾーン	中学生以下 200 円/回									
	一般 400 円/回									
ボルタリングゾーン	中学生以下 150 円/2H									
	一般 300 円/2H									
営業時間	月曜～金曜 : 13:00～20:00 土曜 : 10:00～20:00 日曜・祝日 : 10:00～19:00 ※年末年始 (12月28日～翌1月4日休所)	スケボー広場 : 9:00～22:00 インラインスケート広場 : 9:00～21:00 バスケットボール広場 : 9:00～21:00 ※年末年始休園								
写真										

【事例調査結果】

名称	⑦小山公園ニュースポーツ広場（約 2,900 m ² ） [※2007年4月開設]	⑧城南島海浜公園スケボー広場（約 800 m ² ） [※2005年4月開設]										
関係者との合意形成	スケートボード等のできる公園整備について若者から強い要望があり、「若者の居場所づくり」と「ニュースポーツ振興」の観点から、ニュースポーツ施設設置を小山公園整備計画に盛り込むこととなり、市と若者を中心としたワークショップを開催し、利用者ニーズの把握や利用種目選定、ゾーニングやルールづくり等を協働で行い検討を重ねた。	競技団体等から陳情を受けた地元区発の要望を契機とし、海上公園審議会の答申を受けて整備することとなった。具体的な整備に当たっても競技団体等の意見を取り入れている。										
整備場所の選定経緯	小山小学校(H15.4 開校)の建設に伴い今の場所に公園を移転整備する計画があり、施設設置の要望等と時期が重なったため、公園の面積を拡大し、公園の一部にニュースポーツ広場を整備した。	内陸部の公園では設置が困難な面もあることから、海浜部に立地する公園内で検討した。										
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートボードエリア：9つのセクション（モジュラー式8つ、コンクリートセクション1つ） ● 3 by 3 バスケットボールエリア：コート1面（一般ゴール3つ、ジュニアゴール1つ） ● ストリートダンスエリア：ダンス用鏡3面、屋根 ● 駐車場：55台 ※ 様々な技術レベルの人が利用できるように配置	<ul style="list-style-type: none"> ● スケボー広場(クォーターランプ(5フィート)、ミニランプ(7フィート)、スパイン(4フィート)、バンク(4フィート)、バンク to バンク複合、フラットレール、スプロールレール、マニュアル台) ● 駐車場：274台 ※ 初級から中級まで楽しめる障害物を配置										
事業コンセプト	若年の居場所づくりや魅力あるまちづくりの推進	公園の安全性と公益性などとのバランスをとり、できるだけ制約をなくして利用しやすい公園へ変革を遂げていく										
事業スキーム	公設民営	公設民営										
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	相模原市都市公園条例	東京都海上公園条例										
事業費 (調査・整備・運営)	調査費（一） 整備費（91,014千円）、 運営費（29,190千円）	調査費（一）※他施設と合わせた計算のため不明 整備費（26,900千円）、 運営費（一）※他公園と合わせた計算のため不明										
運営上の工夫	● ニュースポーツ広場(スケートボードエリア)でのヘルメット等の防具着用の義務化	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用料は無料であるが、事前登録制 ● ヘルメット等防具着用を義務付け、夜間は閉鎖管理 										
所在地	相模原市中央区小山4丁目1-39 JR・京王橋本駅 徒歩約15分	大田区城南島4丁目2番2号 京浜東北線大森駅 バス 京急線大森海岸駅 バス										
設置者(所管)	相模原市(環境共生部公園課)	東京都(港湾局臨海開発部海上公園課)										
管理者	指定管理者：横山公園グループ運営共同企業体(共同企業体構成：公財)相模原市まち・みどり公社、美津濃株式会社)	指定管理者：アメニス海上南部地区グループ										
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設使用料</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>照明使用料</td> <td>200円/回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ 障がい者(介護者も含む)は無料</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ 65歳以上は100円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	施設使用料	無料	照明使用料	200円/回		※ 障がい者(介護者も含む)は無料		※ 65歳以上は100円	無料
区分	金額											
施設使用料	無料											
照明使用料	200円/回											
	※ 障がい者(介護者も含む)は無料											
	※ 65歳以上は100円											
営業時間	9:00~22:00 ※原則無休	11月~2月 : 7:00~17:00 3月、4月、9月、10月 : 7:00~18:00 5月~8月 : 7:00~19:00										
写真												

【事例調査結果】

名称	◎鶴沼海浜公園スケートパーク（約 15,000 m ² ） [※2001年7月開設]	◎東静岡アート&スポーツ/ヒロバ（約 24,000 m ² ） [※2017年5月13日開設]																							
関係者との合意形成	もともと小田急電鉄(株)が運営していた、くげぬまプールガーデン跡地の利用方法を検討している中で、(株)湘南なぎさパークにより、スケートボード・BMX等のスポーツ施設として活用したい旨があり、承認した。	地元の競技団体等との調整をし、要望書が提出されたことを受け事業の推進となった。																							
整備場所の選定経緯	当該箇所の周辺がサーフスポットであったことも大きな要因となっている。また、本市にはスケートボードができるエリアがなく、公園でこれらの遊びに対する苦情も多かったため、スケートパークとして開設した。	当該地の有効な活用方法を検討した結果、整備が決定した。 ※「スケートパーク事業化」→「土地選定」の流れではない																							
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 6つのスケートエリア (ストリートリンク、ミニランプ、ビギナーズ、センター、コンビブル、ロードサイド) ※セクションによりコンクリート、木材、樹脂パネル等を使用 ● 駐車場：79台 	<ul style="list-style-type: none"> ● ローラースポーツパーク：約 7,000 m² そのうち、屋外パーク：約 5,800 m² (スケートボード、BMX、インラインスケート、一輪車) ※世界大会誘致可 (AJSA 監修のセクション) ※管理者が常駐、道具のレンタル、スクールあり ● 駐車場：100台 ※コインパーキング 																							
事業コンセプト	上級者向けのコンビブルから、ビギナーが楽しめるエリアまでを備えた総合的なスケートパーク	賑わいづくりの実験場（東静岡アート&スポーツ/ヒロバ全体に対して）																							
事業スキーム	民設民営	民設民営																							
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	都市公園法第5条による公園管理者以外の者の公園施設の設置等	静岡市財産管理規則 (地方自治法による規則、行政財産の目的外使用許可)																							
事業費 (調査・整備・運営)	調査費（不明） 整備費（不明） 運営費（約 25,000 千円） ※人件費、修繕費、スクール講師等委託費	調査費（—） 整備費（150,000 千円） 運営費（56,000 千円） ※H29年度リース費用及び委託料として																							
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 比較的早いサイクルで時代やニーズに沿った新しいセクションに更新する必要があることから、対応するレスポンスの速さが重要と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒロバ一体の管理と、賑わいづくりのコンテンツ（イベントなど）の企画を民間業者に委託している。 ● 民間業者のノウハウを活かしたプロポーザル方式で業者を選定し、施設整備と運営を、ローラースポーツを得意とする民間業者に委託している。 ● 2020年度までの暫定整備としている。 																							
所在地	藤沢市鶴沼海岸 4 丁目 5218 番 1 小田急江ノ島線鶴沼海岸駅 徒歩約 10 分	静岡市葵区東福岡 1-3-76 JR 東静岡駅 すぐ																							
設置者（所管）	藤沢市(都市整備部公園課)	静岡市(企画局企画課総合計画推進係)																							
管理者	公園施設管理者：株式会社湘南なぎさパーク	株式会社 H.L.N.A																							
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未就学児</td> <td>無料（要保護者同伴）</td> </tr> <tr> <td>小・中学生</td> <td>100 円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>300 円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	未就学児	無料（要保護者同伴）	小・中学生	100 円	一般	300 円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>会員</th> <th>ビジター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生以下</td> <td>無料</td> <td>300 円/回</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>300 円/回</td> <td>500 円/回</td> </tr> <tr> <td>一般(19 歳以上)</td> <td>500 円/回</td> <td>700 円/回</td> </tr> <tr> <td>入会（登録料）</td> <td>500 円</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	会員	ビジター	小学生以下	無料	300 円/回	中・高校生	300 円/回	500 円/回	一般(19 歳以上)	500 円/回	700 円/回	入会（登録料）	500 円	—
区分	金額																								
未就学児	無料（要保護者同伴）																								
小・中学生	100 円																								
一般	300 円																								
区分	会員	ビジター																							
小学生以下	無料	300 円/回																							
中・高校生	300 円/回	500 円/回																							
一般(19 歳以上)	500 円/回	700 円/回																							
入会（登録料）	500 円	—																							
営業時間	4月～8月：9：00～18：00 9月～3月：9：00～17：00	11:00～21:00 ※年末年始休日																							
写真																									

【事例調査結果（類似施設／民間施設）】

	①H.L.N.A SKATE PARK（約 1,200 m ² ） [※2013 年 4 月開設]	②MURASAKI PARK TOKYO（810 m ² ） [※2014 年 10 月（リニューアルオープン）]										
関係者との合意形成	—	—										
整備場所の選定経緯	大規模商業施設内では日本初となるスケートパーク	ムラサキパーク東京店スケート&BMX 専門店併設										
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートパーク(スケートボード) ● 駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内スケートパーク(スケートボード) ● 室外スケートパーク(スケートボード、インラインスケート、BMX) ● ムラサキパーク東京店スケート&BMX 専門店 ● 駐車場：200 台 										
事業コンセプト	次世代のボードスポーツシーンが正しいカタチで発展する	ムラサキスポーツが運営する都内 23 区最大級の敷地面積を誇るパーク										
事業スキーム	民設民営	民設民営										
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	(民間施設)	(民間施設)										
事業費 (調査・整備・運営)	不明	不明										
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● スケートスクールやコンテスト、海外ライダーによるデモンストレーションなどを数多く実施 ● 12 歳以下無料により H.L.N.A のコンセプトを体現 	● 14ft のバーチカルランプやフラットパークなど初心者からエキスパートまで遊べる										
所在地	東京都江東区青海 1-1-10 台場シティ東京プラザ7階野外スペース りんかい線東京テレポート駅 徒歩 3 分	東京都足立区千住関屋町 19-1 アメージングスクエア 京成線 京成関屋駅 徒歩 3 分 東武伊勢崎線 東武牛田駅 徒歩 3 分										
設置者（所管）	株式会社 H.L.N.A(建物は三井不動産(株))	株式会社ムラサキスポーツ										
管理者	株式会社 H.L.N.A	株式会社ムラサキスポーツ										
利用料金	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>会員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生以下</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>210 円/3 時間</td> </tr> <tr> <td>一般(16 歳以上)</td> <td>420 / 3 時間</td> </tr> <tr> <td>登録料(1 年更新)</td> <td>300 円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	会員	小学生以下	無料	中学生	210 円/3 時間	一般(16 歳以上)	420 / 3 時間	登録料(1 年更新)	300 円	平日：864 円/回（税込） 土・日・祝：1,080 円/回（税込）
区分	会員											
小学生以下	無料											
中学生	210 円/3 時間											
一般(16 歳以上)	420 / 3 時間											
登録料(1 年更新)	300 円											
営業時間	10:00～22:00	平日：15:00～21:45、土曜：13:00～21:45 日、祝：13:00～20:45										
写真												

【事例調査結果（類似施設／民間施設）】

名称	⑬モリパーク・アウトドアヴィレッジ（約 21,000 m ² ） 【※2015年3月13日開設】	⑭ロゴスランド（約 95,000 m ² ） 【※2018年6月30日開設】	
整備場所の選定経緯	飛行機工場跡地の再開発として、現在社有地となっていた一部を再整備	総合運動公園のレクリエーションゾーンとして整備	
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● クライミングジム&ヨガスタジオ ● ミニトレッキングコース：約 200m ● イベント広場 	【第一期】 <ul style="list-style-type: none"> ● CAMP FIELD ● ふわふわドーム ● 滑り台 ● アスレチック 	
事業コンセプト	「Quality of Life をより豊かにする」	「外で、食べて、遊んで、泊まる。」	
事業スキーム	民設民営	民設民営	
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	(民間施設)	(民間施設)	
事業費 (調査・整備・運営)	不明	不明	
運営上の工夫	アウトドアに特化した体験型の施設を実現するために、店舗だけではなく、イベント広場や約 200mのミニトレッキングコース、芝生広場や池などの環境づくりに幅広く携わった。	世界初の全天候型キャンプスタイルに対応したホテルや、イタリアンベースの本格的なアウトドア料理を満喫することができ、なおかつ公園内は無料で遊ぶことができる。(全体整備費を市とロゴスとで共同負担)	
所在地	東京都昭島市田中町 610-4 JR 青梅線「昭島駅」北口より徒歩 3 分	京都府城陽市寺田大川原 24-4 JR 奈良線・城陽駅前もしくは、近鉄京都線・寺田駅から路線バスに乗り、プラムイン城陽停留所下車	
設置者(所管)	昭和飛行機工業株式会社	株式会社ロゴスコーポレーション	
管理者	昭和飛行機工業株式会社	株式会社ロゴスコーポレーション (2019 年度から指定管理者)	
利用料金	公園内遊具は無料		
	項目	区分	都度会員
	アウトドア/クライミング スタジオプログラム	—	2,700 円/回
	クライミングエリア利用	大人	2,160 円/回
	クライミングエリア利用	大学生	1,730 円/回
クライミングエリア利用	小学生～高校生	1,300 円/回	
※月額会員は 8,970 円 (休日のみまたは平日のみ利用：7,350 円)			
営業時間	平日：9:00～22:00 土・日・祝日：9:00～21:00 (定休日：水曜日)	LOGOS LAND 園内：9:00～17:00	
写真	     <p>出典：昭和飛行機工業株式会社「アウトドアヴィレッジ」HP、NEWS RELEASE 株式会社丹青社 実績紹介 HP</p>	     <p>出典：株式会社ロゴスコーポレーション HP 日刊工業新聞 HP</p>	

【事例調査結果（類似施設／民間施設）】

名称	⑮スポーツ品川大井町（約 24,000 m） 【2018年8月11日開設】
整備場所の選定経緯	不明
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 人工サーフィン ● テニスコート ● パデル ● サッカー・フットサル ● ボルダリング ● バasketボール ● ソフトボール ● スポーツスタジオ ● キッズランド
事業コンセプト	スポーツ以外にも脱出アトラクション、メインダイニング、キッズランドなど、大人から子どもまで楽しめる、一大エンターテインメント空間
事業スキーム	民設民営
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	(民間施設)
事業費 (調査・整備・運営)	不明
運営上の工夫	テニスやフットサル、Basketボールといった定番競技の他に、人工サーフィンやパデルなどの珍しい競技も体験可能（運営にあたり別会社を入れている）
所在地	東京都品川区広町 2-1-19 JR 京浜東北線「大井町駅」西口より徒歩約 5 分 東急大井町線「大井町駅」より徒歩約 5 分
設置者（所管）	JR 東日本スポーツ株式会社
管理者	JR 東日本スポーツ株式会社（株式会社ヒューマックスエンタテインメント）
利用料金	入場は無料 ※各施設利用料金は有料
営業時間	月～土：07:00～23:00 日：07:00～21:00
写真	  <p>出典：いこレボ「スポーツ品川大井町」</p>

【他都市動向】

名称	①笠間芸術の森公園 (計画面積：546,000㎡予定・開園面積：35,900㎡) [※1992年5月8日「スケートボード施設は未開設]	②鶴沼海浜公園スケートパーク・コンピール(約1,100㎡) [※2018年11月25日開設]								
関係者との合意形成	平成30年度に2回検討会を開催し、地元有識者及びスケートボードの専門家との合意形成を図った。	鶴沼海浜公園スケートパークと同様								
整備場所の選定経緯	笠間芸術の森公園において、既存の遊具エリアが手狭になっていることや、10代～20代の若者を集客する施設がないことから、若い客層を集客し、新たな賑わいを創出することを目的として、当公園に整備することとした。	鶴沼海浜公園スケートパークと同様								
整備機能	● スケートボード施設(「あそびの杜」第2期エリア予定地)：約14,200㎡ ※機能：今後検討予定 ※仕様：今後検討予定	● コンピール(おわん型、山型、斜面などの様々な構造物を組み合わせ、コンクリートで一体的に形成) ※スケートパーク内に設置								
事業コンセプト	初心者レベルから国際レベルの競技が可能なコンクリートパーク	スケートボードの国際的な競技開催も可能な大規模コンピール								
事業スキーム	公設民営	民設民営								
事業手法 (整備・運営手法・関連法令等)	都市公園法 条例(笠間市)については今後制定予定	都市公園法第5条による公園管理者以外の者の公園施設の設置等								
事業費 (調査・整備・運営)	調査費(—) 整備費(約500,000千円) ※敷地造成、スケートボード施設整備 運営費(—)	調査費(—) 整備費(32,000千円) 運営費(—)								
運営上の工夫	— (未開園のため)	鶴沼海浜公園スケートパークと同様								
所在地	茨城県笠間市笠間 2345 JR水戸線 笠間駅から車で約5分	藤沢市鶴沼海岸4丁目5218番1 小田急江ノ島線鶴沼海岸駅 徒歩約10分								
設置者(所管)	茨城県土木部都市整備課	藤沢市(都市整備部公園課)								
管理者	笠間市管理課(指定管理にて民間事業者へ委任予定)	公園施設管理者：株式会社湘南なぎさパーク								
利用料金	— (未開園のため)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未就学児</td> <td>無料(要保護者同伴)</td> </tr> <tr> <td>小・中学生</td> <td>100円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>300円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	未就学児	無料(要保護者同伴)	小・中学生	100円	一般	300円
区分	金額									
未就学児	無料(要保護者同伴)									
小・中学生	100円									
一般	300円									
営業時間	— (未開園のため)	・4月～8月 9:00～18:00 ・9月～3月 9:00～17:00 ※毎週月曜定休								
写真										

【他都市動向】

名称	③村上市スケートパーク（約 16,700 m ² ） [※2019年4月27日開設]		
関係者との合意形成	地元のスケートボーディング連盟と計画段階（平成 27 年度）から現在に至るまで協議を重ねている。		
整備場所の選定経緯	土地の寄付があったため（当初は建て替えの予定であった）		
整備機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 芝生広場：3,850 m² ● ランニングコース：170m ● 多目的室：39 m² ● 駐車場：131 台 ● アリーナ：1,542.24 m²（スケートパーク設計で世界最高峰と言われている米国カリフォルニアスケートパーク社の監修による設計及び施工） ● ボルダリング：82.85 m² ● スラックライン：121.93 m <p>※パーク（世界最高峰「VANS TOUR」と同様の難易度を確保し、国際大会の開催可能） ※ストリート（様々なレベルの競技者が楽しめる規模と難易度であり、国内大会の開催可能） ※市民が誰でも日常的に利用できる（遊び）の仕様 ※木材の産地として、村上市産材を多用（667 m²）、木の新素材「CLT」の使用</p>		
事業コンセプト	国内最大規模の屋内スケートボード施設を通じた、東京 2020 大会の正式種目となった「スケートボード」に出場できる選手の育成、「東京オリンピック・パラリンピック」をキーワードとした地域活性化		
事業スキーム	公設公営（将来的に指定管理者制度への移行予定）		
事業手法 （整備・運営手法・関連法令等）	村上市スケートボード施設条例 新潟県立自然公園		
事業費 （調査・整備・運営）	調査費（1,448 千円） 整備費（1,700,000 千円） 運営費（30,000 千円）		
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本選手権等の誘致 ● 代表選手の合宿誘致 ● スケートボーディング連盟やスポーツ団体との連携 		
所在地	新潟県村上市瀬波温泉三丁目 2 番 22 号 JR 羽越本線 村上駅から車で約 5 分		
設置者（所管）	村上市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室		
管理者	村上市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室 ※一部業務委託予定		
利用料金	区分	金額（1 回）	
		大人	小人
	アリーナ	500 円	200 円
	トレーニングコーナー	200 円	100 円
	ボルダリング	200 円	100 円
	ランニングコース	100 円	50 円
営業時間	・9：00～21：00 ※12月29日～翌1月3日まで休館		
写真			

若者文化の発信によるまちづくりに向けた
環境整備等に関する基本計画
令和元(2019)年 11 月
市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室
TEL 044(200)2347
FAX 044(200)3599
E-mail 20olypara@city.kawasaki.jp